

郷土こぼれ話

地域の神様 雀神社の碑文

雀神社には、「神徳無窮」という碑があります。漢文で書かれた神社のいわれです。自治会長の四分一芳治さんが書き出し、さらに現代語訳をされました。以下に紹介します。

神徳無窮

神代之時 天照大神隠天磐窟也天地晦冥災妖並起於是八百萬神集議天
鈿女之命乃為異装舞神楽演俳優為諧謔以解頤慰大神心故再君臨于高天
原四海復照明矣謹按雀神社者即祭命社而自上古鎮座此地 村民仰其靈
驗享保三年十月十九日神祇管領卜部兼敬以宗源宣旨奉授正一位雀宮大
明神位記爾授崇敬益深矣明治戊申歲秋九月氏子相議合祀境内八坂大神
天満天神二社擴社地更増築舊社改設拜殿竝祭器庫期年而竣成矣於是乎
官指定神饌幣帛料供進神社頃日氏子建石欲傳比事于後微文於余依叙其
梗概云爾

碑文の内容（四分一芳治氏訳）

碑題：神の恵みを永遠に

碑文： 神代のとき、天照大神が天の岩戸にお隠れになり、天地が暗闇になる災いが起きた。

八百万の神が集まり協議し、このためにやむを得ず天鈿女之命が変わった装いで神楽を舞い、神々が大声で笑いおどけるなど演技し、大神の心が慰み、再び君主となり高天原や四海を照らし元のように明

るくなった。

雀神社の者は慎んでお願いし、祭命社として直ちに此の地に鎮座し、村民はその靈験を仰いだ。

享保三年十月十九日神祇管領卜部兼敬の宗源宣旨に正一位雀宮大明神の位を奉授と記されている。その後、崇拜する心は益々深くなった。

明治四十二年九月氏子が相談し、八坂神社、天満天神の二社を境内に合祀し社地を広げ、更に旧社を増築、拜殿並びに祭器庫を丸一年かけて改設した。

そして、官より神饌幣帛料供進神社に指定され、その頃氏子より碑を建てて此のことを記録し後世に残すように依頼され、私はあらましを短い文にした。

※1：神祇管領（じんぎかんれい）＝吉田神道を継承する吉田家当主が代々名乗った称号。

※2：宗源宣旨（そうげんせんじ）＝諸国の神社に位階、神号、神職に許状を授けるための文書。

※3：享保3年＝1718年

※4：明治42年＝1909年（伊藤博文暗殺の年）

※5：神饌幣帛料供進神社＝郷社、村社を対象に明治から終戦に至るまで勅令に基づき県令をもって県知事から、祈年祭、新嘗祭、例祭に神饌幣帛料（お祝い金）を供進された神社。

※6：四海（しかい）＝四方の海。転じて天下、世界中。

引用：「神徳無窮の碑の内容」四分一芳治氏
ふりがな・註：むらた ひとし